

主題：聖書の核心

メッセージ 12

神の愛する御子の王国と

キリスト・イエスの心の深みにおける召会生活

聖書：コロサイ 1:13. ピリピ 1:8. コロサイ 3:12. ピレモン 7, 12, 20 節.

ローマ 12:15. I コリント 12:25-26

I. 御父はわたしたちを暗やみの権威から救い出して、彼の愛する御子の王国に移してくださいました——コロサイ 1:13：

A. 暗やみの権威とはサタンの権威を意味します——使徒 26:18：

1. 暗やみとは死としてのサタンです。ですから、暗やみの権威から救い出されるとは、死の権能を持つ悪魔から救い出されることです——ヘブル 2:14. ヨハネ 17:15。
2. わたしたちが悪魔、サタンから救い出されたのは、キリストの死によって、また復活の中でキリストの命によってです——コロサイ 1:13. 2:14-15. ヨハネ 5:24。
3. わたしたちが天然の人の中におり、あるいは自己の中で生きているときはいつも、暗やみの権威の制御の下にいます。わたしたちが行なうことができる唯一の事柄は、十字架に行って、十字架に暗やみのサタンの権威のあらゆる面を対処させることです——マタイ 16:24. コロサイ 3:5-9。

B. 御子の王国とはキリストの王国です——啓 11:15. 12:10：

1. 神の御子は神聖な命の具体化また表現です。ですから、御子の王国は命の領域です——I ヨハネ 5:11-12. ヨハネ 1:4。
2. わたしたちが移された王国は、神の愛する御子の王国です。この命の領域は恐れの中ではなく、愛の中にあります——コロサイ 1:13。
3. わたしたちが今日、自分自身を見いだす王国は、命、光、愛の領域です——I ペテロ 2:9。
4. 御父の御子は、命の源としての御父の表現です——ヨハネ 1:18, 4. I ヨハネ 1:2：
 - a. 御父の愛する御子は、神聖な愛の中でわたしたちにとって命の具体化であり、復活における権威を伴います。それは、わたしたちが喜びの領域としての彼の王国の中にいることができるためです——マタイ 3:17。
 - b. 御子は、神聖な命の具体化として、御父の愛の対象です——17:5：
 - (1) 御子の中に具体化された神聖な命は、神聖な愛の中でわたしたちに与えられます。
 - (2) 神聖な愛の対象はわたしたちにとって、神聖な愛における命の具体化として、復活における権威を伴います。これが御父の愛する御子の王国です。
5. 御父の愛する御子の王国に移されるとは、わたしたちの命である御子に移されることです——I ヨハネ 5:12：
 - a. 御子は復活の中で今や命を与える霊であり、彼の復活の命の中で愛をもってわ

たしたちを支配しています—— I ペテロ 1:3. ローマ 6:4-5. I コリント 15:45 後半。

- b. わたしたちは復活の中で命としての御子によって生きるとき、彼の王国の中で生きて、御父の愛の中で彼を享受しています。ここでわたしたちは召会生活を持ちます——コロサイ 3:4. ヨハネ 6:57。
- c. 御父は彼の御子を喜ぶので、御父の愛する御子の王国は喜ばしい事柄、喜びの事柄です——マタイ 3:17. 17:5。
- d. 今日、召会生活は御父の愛する御子の王国であり、それは父なる神にとって神の御子のように喜ばしいものです。

II. わたしたちはキリスト・イエスの心の深みの中で召会生活を生きることができます——ピリピ 1:8 :

- A. 主イエスは人として、そのさまざまな機能を伴う人の心の深みを持っています。心の深みにおけるキリストの経験とは、彼の思い、勘定、意志、魂、心、霊における彼の経験であり、それは彼の愛、願い、感覚、思想、決定、動機、意図を含みます——ルカ 2:49. ヨハネ 2:17. マタイ 26:39. イザヤ 53:11. 42:4. マルコ 2:8。
- B. パウロは絶えずキリストを、彼の心の深みの中で経験した人でした。パウロは自分自身の心の深みを保ったのではなく、キリストの心の深みを彼のものとししました。パウロの内なる存在は、キリストの心の深みで再構成されました——ピリピ 2:5. I コリント 2:16 後半. ローマ 8:6。
- C. キリストを生きることは、わたしたちがキリストの心の深みの中にとどまることを必要とします——ピリピ 1:21 前半, 8 :
 - 1. パウロはキリストの心の深みを経験しました。彼はキリストの心の深みの中でキリストと一であって、聖徒たちを恋い慕いました—— 8 節。
 - 2. わたしたちはキリストの中にいる者になろうとするなら、彼の心の深みの中に、彼の優しく繊細な感覚の中になければなりません——ヨハネ 15:4 前半。
 - 3. キリストを生きるとは、彼の心の深みの中に住み、そこで彼を恵みとして享受することです——ピリピ 1:7. 4:23。
- D. ピレモンへの手紙には、キリスト・イエスの心の深みにおける召会生活の絵があります—— 7, 12, 20 節 :
 - 1. 心の深みは、内なる愛情、情け深さ、同情を表徴します——ピリピ 1:8. 2:1. コロサイ 3:12。
 - 2. パウロの内なる愛情と同情は、オネシモと共にピレモンに行きました——ピレモン 12 節。
- E. ピリピ人、コロサイ人、ピレモンへの手紙が啓示しているのは、パウロがキリストの感覚を自分自身の感覚とすることによって、キリストのからだの実際の中に生きたということです。からだに対するキリストの感覚は、からだに対する彼の感覚となりました :
 - 1. パウロはキリスト・イエスの心の深みを彼自身の心の深みとして、キリストのからだを顧みしました。からだに対するキリストの感覚は、からだに対するパウロの感覚となりました——ピリピ 1:8. コロサイ 3:12. ピレモン 7, 12, 20。

2. わたしたちはパウロのように、かしの感覚をわたしたち自身の感覚とすべきです。これは、わたしたちがからだの生活を生きるために最も必要なことです——ピリピ 2:1. コロサイ 3:12。
3. わたしたちはキリストのからだの肢体であるので、からだの感覚を持ち、からだに対する感覚を持つ必要があります。それはキリスト・イエスの心の深みの中に生き。こうして、キリスト・イエスの深みの中で召会生活を生きることによります——I コリント 12:25-26. ローマ 12:15. ピリピ 1:8。